

気になることはありませんか？

子どもたちの発達や成長について、気になることや心配なことはありませんか？

手助けの必要な子どもが適切な支援を受けるには、

- 子どもたちをとりまく人たちが、子どもの発達についての正しい知識を持つこと
- 子どもの今の姿を学校・家族・本人が共通理解すること
- 0才から成人になるまで切れ目のない支援環境が整うことが、必要です。

さらに、子どもたちがいきいきとその子らしく育つためには、親が「安心して」地域社会で育てていくことが大切です。

ふくろうの会は「この子にとって」を合言葉に、親と、行政・学校・保育園・福祉・医療など関係する方たちとが、同一歩調で連携を図るために設立した会です。ともに学び合い、支え合い、声を届けあい、お互いに理解を深めながら、子どもたちの発達を支えていきましょう。一人ひとりの「子ども」を、「みんな」で、知恵を出し合っ
て育てていく会なのです。



「つながる」



- ふくろうカフェ
なんでも話そう、という情報交換の例会です。先輩お母さんやコーディネーターの先生が悩みを聞いたり、相談先や支援方法を提案したりします。入学に向けて、行事に向けて、学習のこと、異性とのこと、話題はさまざま。ここで聞いたことは他では話さない約束をしておしゃべりします。



- ふくろうキッズ
つながりのできた親同士がお互いの子どもをわが子のように見守る「チーム」になっ

ていきます。子どもたち同士、きょうだい児(障がい児の兄弟姉妹)同士もつながり、地域で暮らす礎にしていきます。



★行政・福祉など子どもたちを支えて下さる立場の方がお越しになり、支援していただくこともあります。



「学ぶ」

- 本を読む
ラーニングセンター前のふくろうの会書籍コーナーに貸出し用の図書があります。会員でなくても1人1冊1か月借りていただけます。備えつけのノートに必要事項をご記入ください。



- 勉強する
相談支援専門員、養護学校の先生、療育コーディネーターの方など、専門的な知識をお持ちの方を招いて勉強会や相談会をします。また、近隣で行われる講演会やセミナーのご案内をお届けします。

養護学校、高校、福祉事業所など卒業後にかかわる施設を見学に行きます。



「広める」

身体的ハンデや知的な遅れがある子はもちろん、知的に遅れがないために周囲に特性をわかってもらえず生きづらさを抱えている「発達障がい」の子どもたちに対して、地域の多くの人々が正しく理解し、適切な支援をして下さるようおたよりなどでお伝えしていきます。

